好いとお！福津

Readers Voice 読者の広場

読者の声を中心に、みんなと広報・マーケティング係で作る交流コーナーです。広報ふくつの感想はもちろん、市政へのご意見、ふるさと福津市への思いや日々の生活のこと、市内の出来事のリポートなどを掲載していければと考えています。たくさんの声をお寄せください。

広報2月号の感想

花農家の人たちの挑戦に感動

トルコギキョウとの初対面は30年ほど前で、可憐な花に心が和みました。トルコギキョウが福津の名産になるまでの、花農家さんの苦労や歴史を知ることができてうれしいです。（へんなふみ台さん／東福間／71歳）

福岡県は花栽培が盛んで、福津も例外ではありません。特集では、市内で生産されているさまざまな花の品種や、福津を代表する花のトルコギキョウの秋出荷に挑んだ花農家の人たちの取り組みを紹介しました。

福岡県は花の生産量では全国でも上位ですが、花の消費額は低い順位となっています。花も野菜などと同様に地域で作られたものです。食べ物と同じように、これからは、花の地産地消を進めることも大切なことだと思います。

美しい福津の花には農家の人たちの努力や思いがたくさん詰まっています。丹精込めて作られた花は日々の暮らしに彩りを加えてくれます。皆さんも福津の花を手に取ってみませんか。

美しいスイセンが心の癒やしに

福間の大和町交差点から宮地嶽神社方向へ歩いていくと、街路樹の根元に、ゆらゆらとかわいいスイセンが咲いていることに気が付きました。この花の由来が気になったので、当時を知る大和2区のかたに、スイセンを植えた経緯などを聞きました。そのかたの話によると、平成16年に郷づくりの前身である「福間まちづくりの会」の支援によって、大和2区の有志のかたがたが、旧福間町から町花のスイセンを譲ってもらい、参道の美化と宮地嶽神社を参詣する人に楽しんでもらえるようにと植えたのが始まりだそうです。

このスイセンは今も地域のかたがたが「せっかく植えた花だから」と花の周りの雑草を取るなどして、大切に守っていきます。（うめさくさん／中央）

私もこの道をよく通りますが、お便りをいただいて、初めてスイセンが街路樹の根元に生えていることに気が付き、由来についても知ることができました。

普段私たちが何気なく見ている風景には、地域のかたがたによって守られ、維持されているものがたくさんあります。私たちの心に潤いを与えてくれる風景とそれを守ってくれるかたがたへの感謝の気持ちを忘れずにいたいものですね。

コロナ禍で不安な日々が続きますが、美しいスイセンに癒やされました。皆さんも花を楽しみ、心をほっと温めてみてはいかがでしょうか。（うめさくさん／中央）

街角カメラリポート

このコーナーでは読者の皆さんから寄せられた、市内の出来事や旬の話題を写真とともにお届けします。

津屋崎から鐘崎へ続く道路の途中に、沖縄の首里城にある守礼門のような形をした建物があります。私は「一体あれは何なのだろう」と車で通る度に思っていました。

ある日、その建物を近くで見てみることにしました。坂道を登っていくと観音像が出迎えてくれました。赤ちゃんを抱いた観音像は優しく慈悲深い顔をしていました。建物まで行くと「鬼塚子宝観音」と書かれた札が掛けてありました。門の上には「守霊之門」と書かれていて、木の札には、勝浦出身の3人の若者が太平洋戦争中に沖縄で戦死し、その鎮魂のための供養塔として建立されたことが、毛筆で一字一字丁寧に記されていました。門をくぐるとほこらがあり、子どもを授かることができるようにとの願いが込められた人の生殖器を模した置物などが安置されていました。

▲戦争のことを伝え続ける守礼門を模した供養塔

のどかな勝浦の地にひっそりと立っている「守霊之門」。この建物は新しい命を授かりたいという人々の思いを受け入れ続けることでしょう。そして、沖縄の地で戦死した3人の若者の冥福を祈ると共に、戦争の悲惨さを後世の人々に語り続けていくことでしょう。この建物を見て、私たちにとっても、戦争について語り継いでいくことはとても大切なことだと思いました。（T・Uさん／津屋崎／63歳）

お便り・投稿大募集

「好いとお！福津」は皆さんと一緒に作るページです。広報紙の感想などがあれば21ページの市まちづくり推進室宛てのはがきやメールなどで受け付けています。街角カメラリポートは、記事を写真とともに市まちづくり推進室宛てに郵送またはメールで投稿してください。投稿記事は500文字程度で作成し、写真は郵送の場合は印刷したものを、メールの場合は2MB以上のJPEGデータを送付してください。ただし、送信データが10MBを超えると受信できないことがありますのでご注意ください。

お送りいただいた内容は、紙面の都合で加筆、修正、短縮する場合があります。また、応募多数の場合は選考しますので、掲載できないこともあります。原稿や写真は返却しませんのでご了承ください。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。たくさんの声をお待ちしています。

受付、問い合わせ　市まちづくり推進室☎43・8113、メール　info@city.fukutsu.lg.jp

人権めざそう意識が根づくまち

市民一人ひとりの人権と、多様な価値観を尊重し合える社会を目指す福津市。このコーナーでは、人権について思いを巡らすひとときを提供します。

▶県のコロナ差別撲滅を呼びかける啓発ポスター

「コロナ差別」という人権侵害を撲滅しよう

新型コロナウイルス感染症の感染拡大抑制のため、昨年の4月から5月にかけて全国で緊急事態宣言が発出されました。ちょうどこの頃から「コロナ差別」という新たな言葉を耳にするようになりました。コロナ差別とは、感染者やその家族、最前線でウイルスと戦う医療従事者、運送業者、飲食店などに対する誹謗中傷やいじめ、差別的な対応がエスカレートし、社会問題化している現象のことです。

具体的な差別事例として「感染者本人やその家族が職場や学校で露骨に避けられた」「医療従事者の子どもが通う保育園から通園を拒否された」「自粛要請を守って営業している飲食店に、営業するのであれば警察に通報するという張り紙をされた」などの例があります。人は未知の感染症にさらされることで不安や恐れを感じ、それを遠ざけたいという心理が、感染症に関わる人を不必要に避けようと、差別的な言動を取ってしまうのです。

コロナ差別と聞いて、真っ先に思い至るのは、ハンセン病による人権侵害です。ハンセン病も新型コロナウイルスも、当初、原因不明だった点では同じであり、差別の歴史を繰り返してはなりません。

現在、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んでいますが、接種には時間がかかり、今後も予断を許しません。また、感染予防を徹底しても、感染を防ぐことができる保証はありません。確かな情報に基づいた冷静な行動を取ること、他者を思いやることが大切です。コロナ差別という負の連鎖を再び起こしてはなりません。市はあらゆる人権侵害を決して許しません。皆さん一人一人のご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ　市人権政策課☎43・8129